

人のご縁で  
でっかく  
生きる！

㈱クロフネカンパニー代表

中村 文昭

そのおじいさんがなんで見ず知らずの僕の保証人になつてくれたか。

そのおじいさんはすごいお金持ちなんです。若い時はお金のことばかり考えていた。満州時代の話とか戦争の話、戦後は日本を復活させないといけないと考えて、高度経済成長と共にとにかく物を手に入れることだけ考えて、人の心なんて二の次だったと、そんな話をしてくれました。

「あれで日本人はだめになつた」っておっしゃっていました。元来、日本人は人と人との和を大事にしていたのに、あの焼け野原からの短期間の復興で一番大切な心を失った」と。そして「俺はまさにその典型だ。金のことばかりで、家族をほったらかしにしていた」と。

息子さんが思い悩んでいたことを奥さんから聞いていたのに、「そんな話を俺にするな。それはお前のすることや」と言つて突

## 「俺の全財産をお前の担保にしてやる」

◇9◇

き放した。昔気質の人間やからそんな言い方しかできなかつたんですね。そうやって奥さんも息子さんもほったらかしにしていたそうです。

□ ■ ■ □

ある日、息子さんは家の中で首を吊つて死んでいったそうです。第一発見者が自分だった。わが子が宙にぶら下がって冷たくなっている姿を見たとき、目の前が真っ白になり、ご自身の全人生を呪つたそうです。そして通夜が済み、葬式が終わつた翌日、今度は奥さんが後追い自殺をしたんです。

3日間で息子さんと奥さんを失くされ、それからずっと心に空いた穴を埋めることができずに生きてきたそうなんです。

「何の為の人生だったのか。何の為の仕事だったのか。お前の言う何の為に仕事をするのか」という言葉が胸に突き刺さった」と話してくれた後に、「俺は今あの世に行つたら息子と家内に合わず顔がない。だけど74歳になつて体の自

由もきかない。だから俺の全財産をお前の担保に放りこんでやる。お前は俺の代わりにその金で人に喜ばれる仕事をしろ。それで稼いだ金で世の中に役に立つことを全国区でやってくれ。

俺の全財産をお前に賭ける。思うままにやれ。失敗しても俺に謝る必要はない。俺がお前を見込んだだけのことやから。だけどお前の活躍する姿は天国に行つてからもずっと見ている。そして天国に行つたら『俺の74年間はあいつにくれてやつたんや』と家内と息子に話す。だから人に喜んでもらえる事業をやつてくれ』って言われたんです。

僕はもう号泣でした。おじいさんは自分の権利証を全部、銀行に持つていつて、「これを全部担保に入れるから、この若造の事業のために金を用意してくれ。事業が失敗したら俺の全財産全て持つていつていい」と銀行の人に言つたんですよ。

そのとき僕は25歳でしたけど、2億3000万円を借りることができたんです。

僕にお金を貸してくれる人を捜し求めて2年半。もし途中で諦めていたら、あのおじいさんには出会えなかつたわけです。

（高鍋西都法人会が主催した講演会にて）